

# 若年労働市場の変化と 大学教育の課題

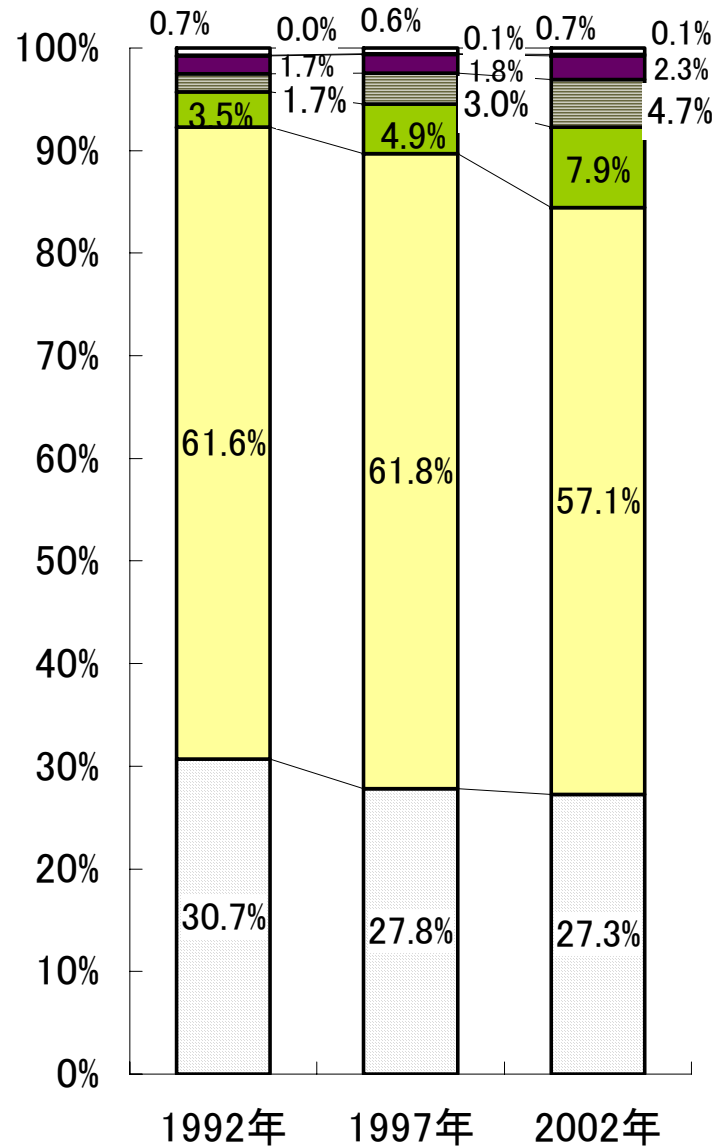
労働政策研究・研修機構  
小杉礼子

---

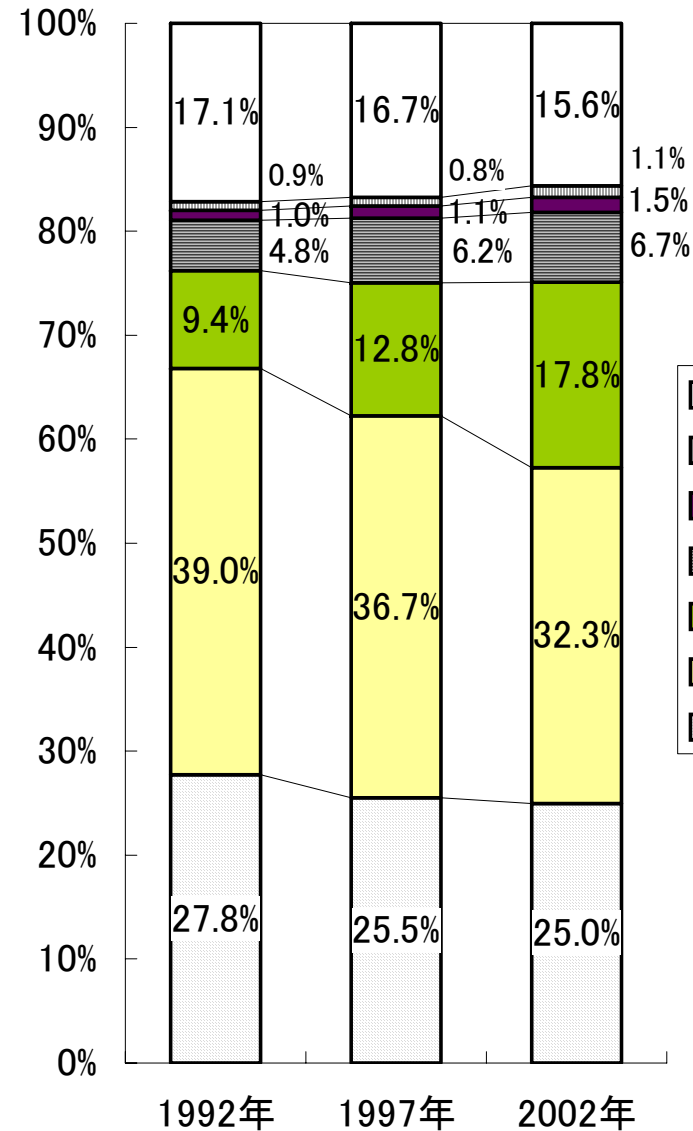
# 若年労働市場の変化と大学教育の課題

- 若者の就業状況の変化
  - 企業行動の変化と不変
  - 大学生の現状・・・進路選択の迷い
  - 採用の早期化とインターネット
  - 増える大学中退－選択先延ばしで進学
  - 学校から職業への移行の変化と大学の役割
-

# 若者の就業状況の変化(15-34歳)



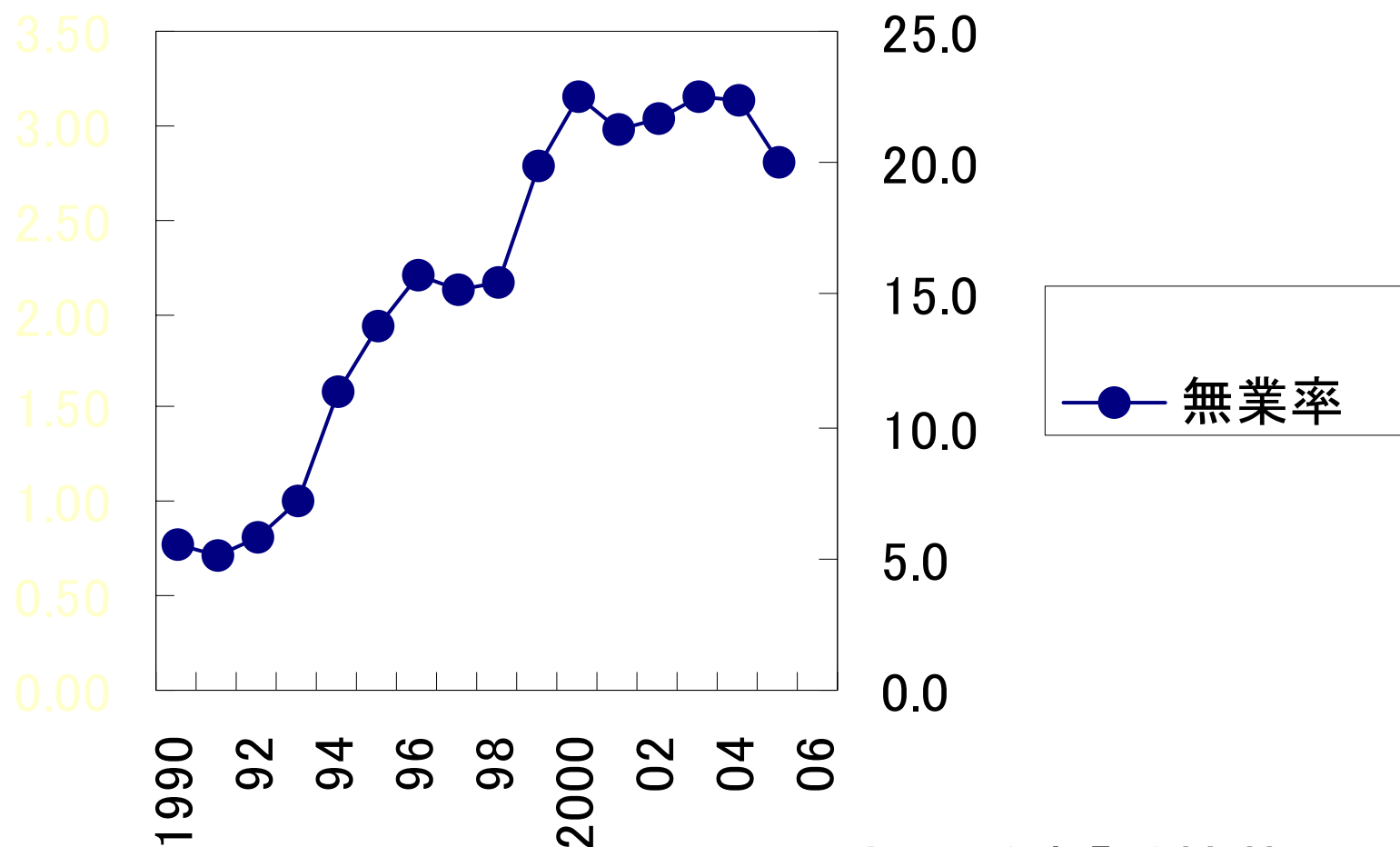
男



女

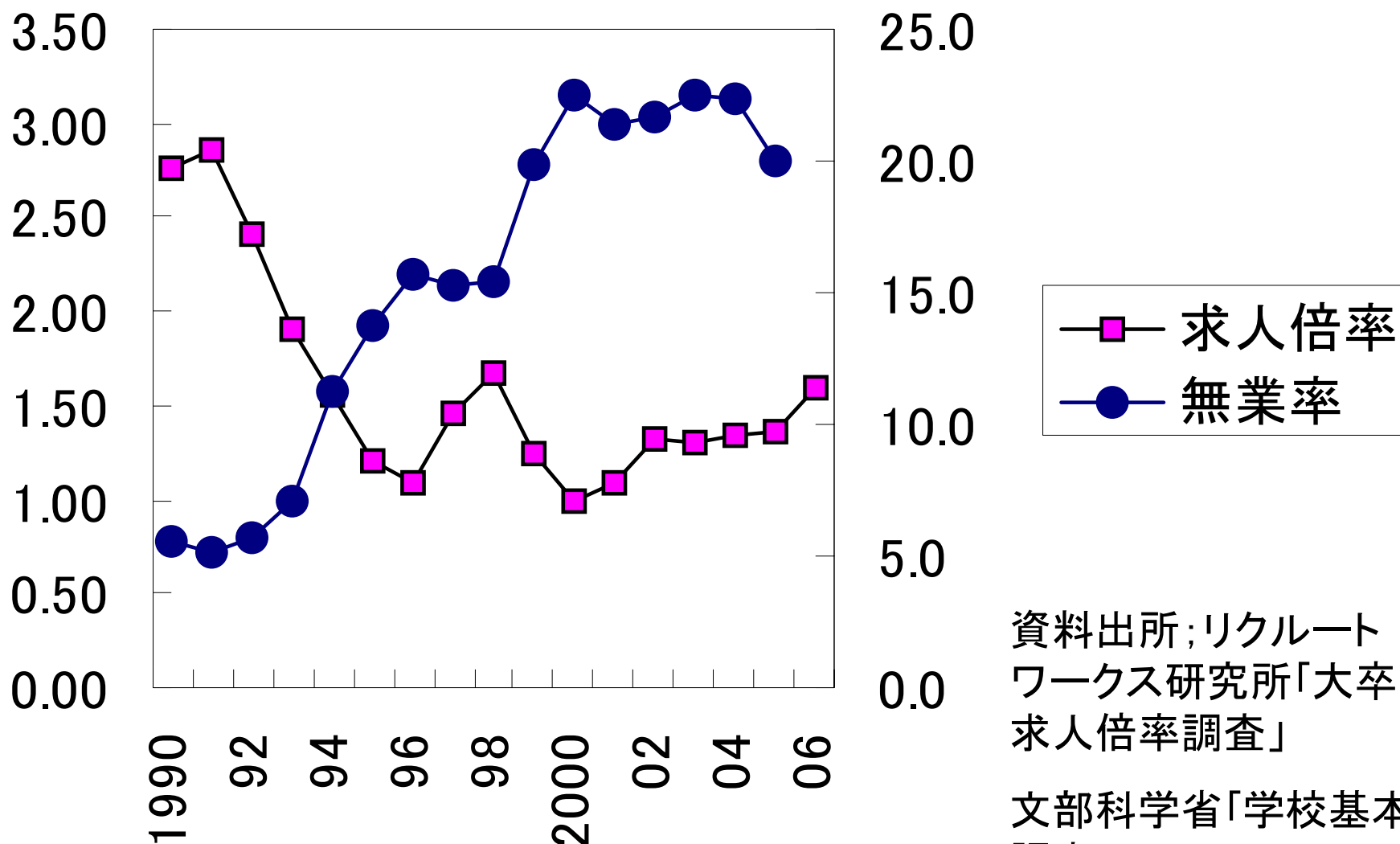
出所:総務省「就業構造基本調査」

# 大学卒業時点での無業率の推移



文部科学省「学校基本調査」

# 大卒求人倍率と大卒無業率

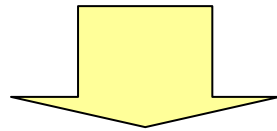


資料出所;リクルート  
ワークス研究所「大卒  
求人倍率調査」

文部科学省「学校基本  
調査」

# 企業行動の変化

- ・90年代初めからの景気低迷
- ・日本型長期雇用慣行の修正  
→新規学卒採用の厳選化とアルバイト・パートの多用
- ・高付加価値型・知識集約型産業へのシフト  
→専門性の高い人材への需要
- ・短期的利益を重視する経営→早期戦力化・早期選抜

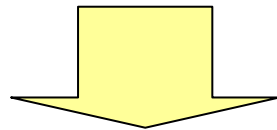


若年者の正社員採用の限定（特に：低学歴・10代、  
学校中退、未就職卒業生、早期離職者）

---

# 企業行動の不変

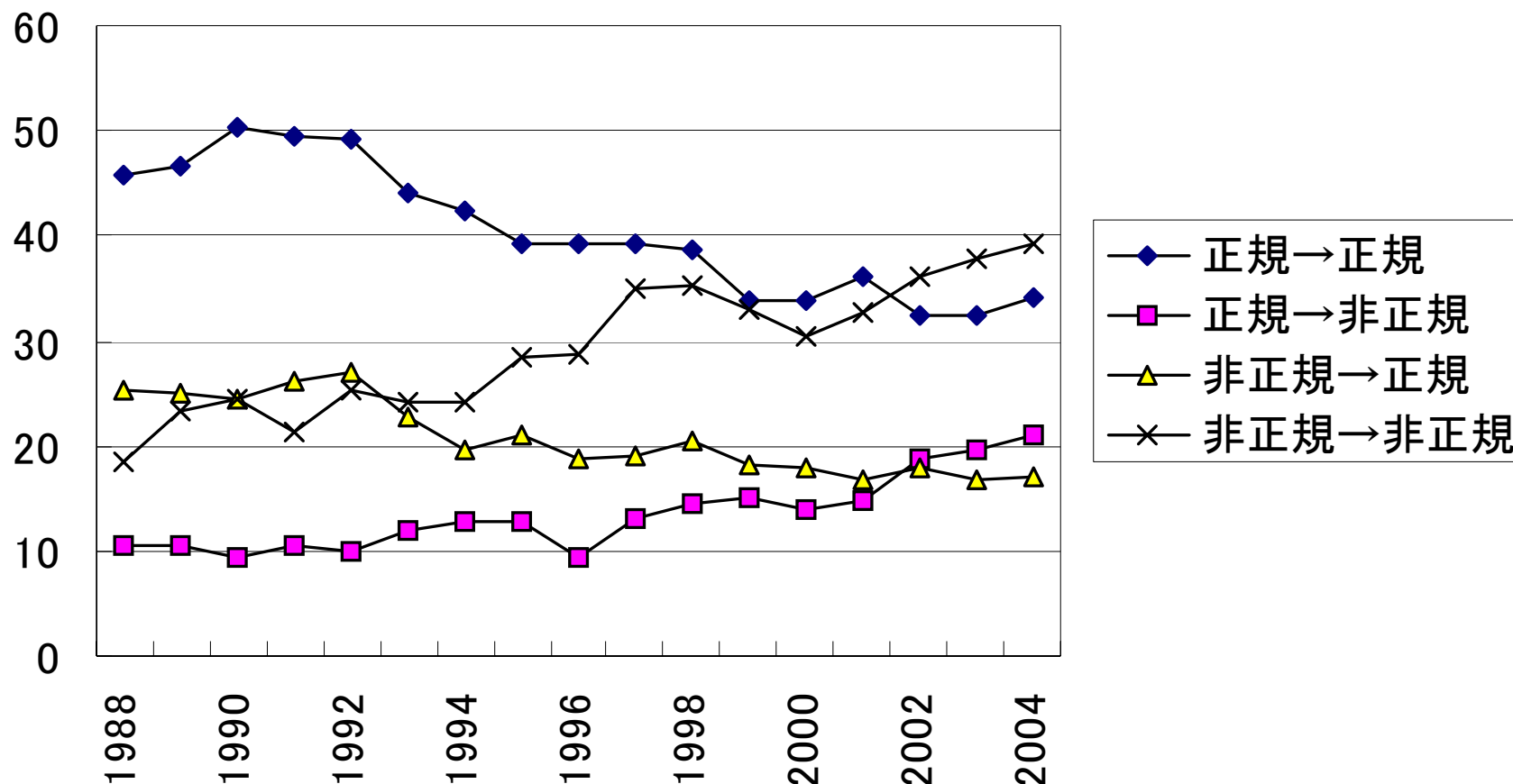
- ・典型雇用（正社員）と非典型雇用の労働条件格差
- ・非典型雇用から典型雇用への転換には高いハードル  
（内部労働市場の発達した日本型雇用）  
→中途採用は即戦力



世代問題化するフリーター・ニート

---

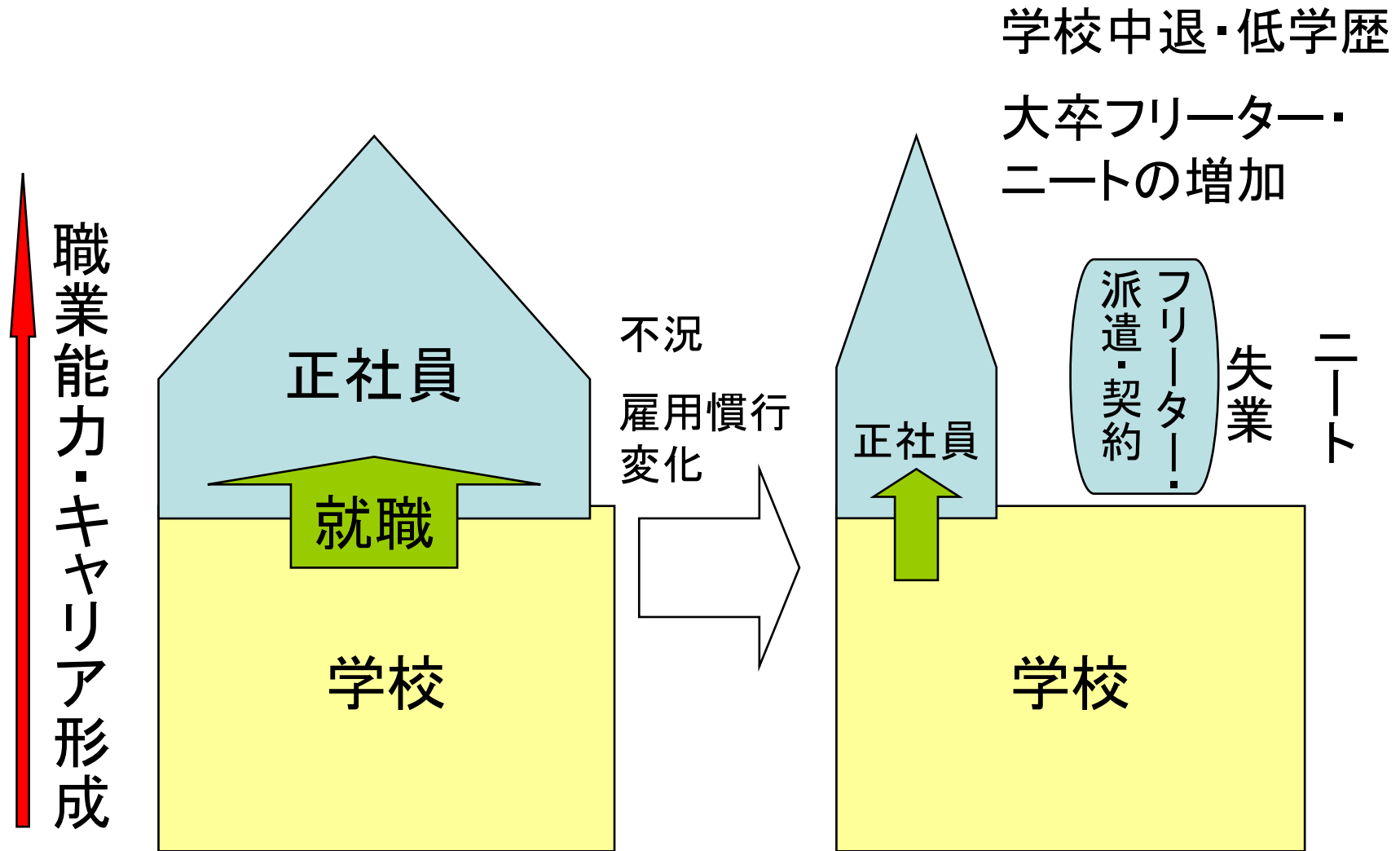
# 15-34歳離職者に占める就業形態別雇用者 になった者の割合(在学者を除く)



資料出所:厚生労働省「労働経済白書」2005

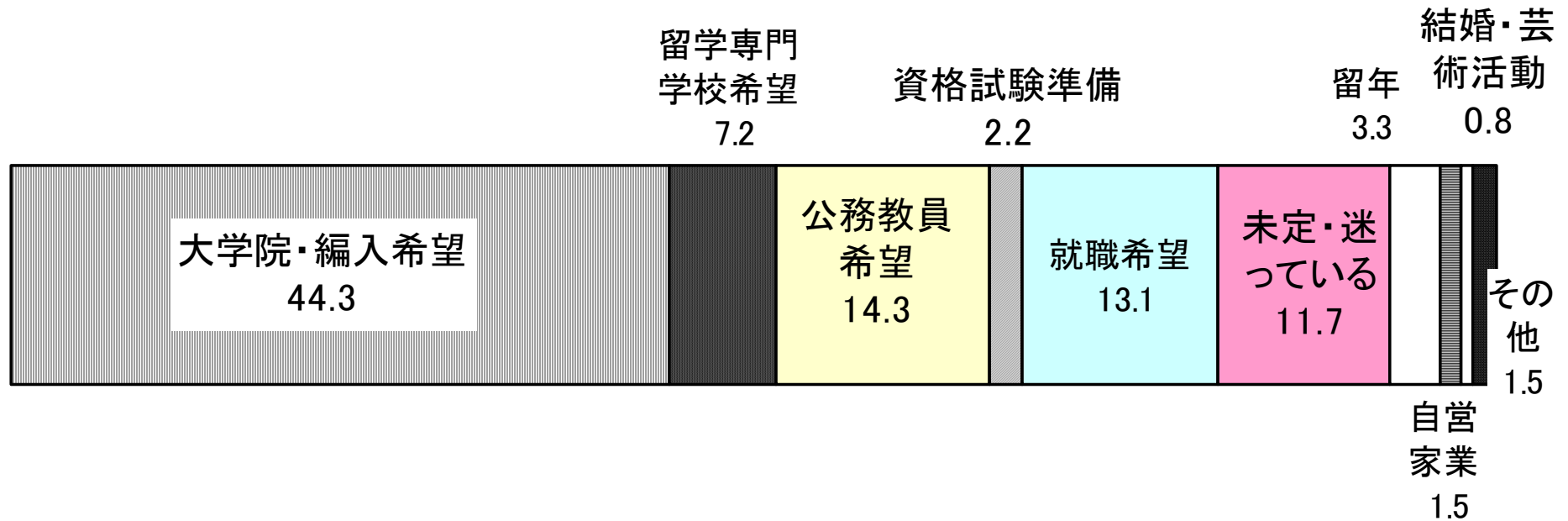


# 学校から職業への移行の変化



# 大学生の現状

## —未内定だが就職活動をしていない 大卒予定者の状況(2005年11月時点)



資料出所; JILPT「大学生のキャリア展望と就職活動に関する実態調査」2006

# 「未定・迷っている」学生の事情

- 「自己分析をして企業説明会や試験を受けたが、自分自身がどんな職に就きたいか何がしたいのか分からない。大学で学んだ分野に興味がなく卒業研究にも気持ちが入らない。・・・高校の時に将来のことを考えておけば良かったと後悔している。」(工学、21歳、女性)
- 「まだやりたいことがわかってないからこんな時期だがうごけない。・・・どうすれば就活にふみだせるかを知りたい。今一步踏み出せない。」(商・経、22歳、男性)
- 「将来やりたい事が見つかると思い入学をしたので、やりたい事が見つからず、あせりを感じている。」(商・経、22歳、男性)
- 「自分自身を見失い、精神的不安定の状態が長びき、就活におくれた事でさらに不安がつのり、自己嫌悪ばかり続いている」(家政、22歳、女性)

## 就職希望だが活動していない学生の事情

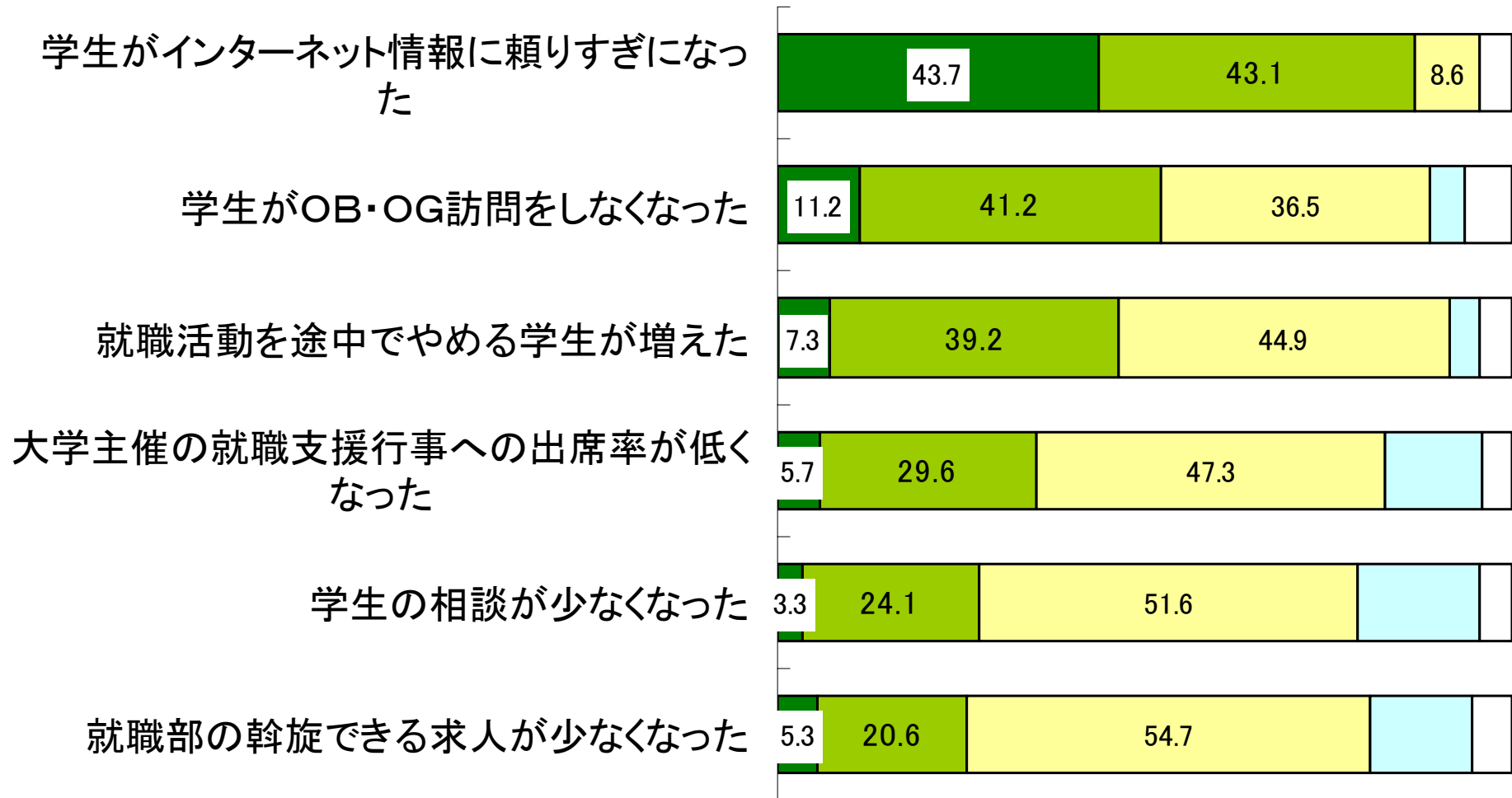
- 「実家に帰ってから仕事を探そうと思っています。卒業できるか未定なので今は勉強に専念しています。」(人文、21歳、女性)
- 「小さな事務所に所属して、出来ればコピーライターの仕事をしてみたい。・・・どんなことから活動を始めたら良いか分からない。」(芸術、21歳、男性)
- 「入りたい会社が正社員の募集がないのでアルバイトで入ろうと思っています。」(芸術、21歳、女性)
- 「大切なことだがメンドクさいのでさきのぼしている。・・・興味をもっていることが何かわからなくなった」。(商・経、21歳、男性)
- 「就職活動に踏みきれずにいる。フリーターでもいいのでは？と思ってしまうこともあるし、海外留学をして専門性を深める勉強もしたいと思う。方向性が見えなくて、困っている。」(社会福祉、21歳、女性)

# 卒業後の進路予定と就職活動

	説明会参加企業数	面接を受けた企業数	内定企業数
合計	11.7	5.7	1.3
正社員内定	14.7	7.2	1.6
公務教員内定	3.0	1.8	1.4
契約派遣・非常勤内定	10.7	5.5	1.6
内定なし・就活中	6.5	2.9	
無活動・大学院希望	3.8	1.1	
留学・専門学等希望	6.0	1.9	
無活動・公務教員希望	3.7	1.1	
無活動・就職希望	5.4	1.7	
無活動・未定・迷っている	3.5	1.1	

注；それぞれ上下5%を除く平均値。

# 最近4, 5年の就職活動の変化



■ とてもそう思う
 ■ ややそう思う
 ■ あまりそう思わない
 ■ まったくそう思わない
  無回答

資料出所: JILPT「大学就職部／キャリアセンター調査」2006

# インターネット就職活動の問題

- インターネットに頼り、自ら行動しない(132校)

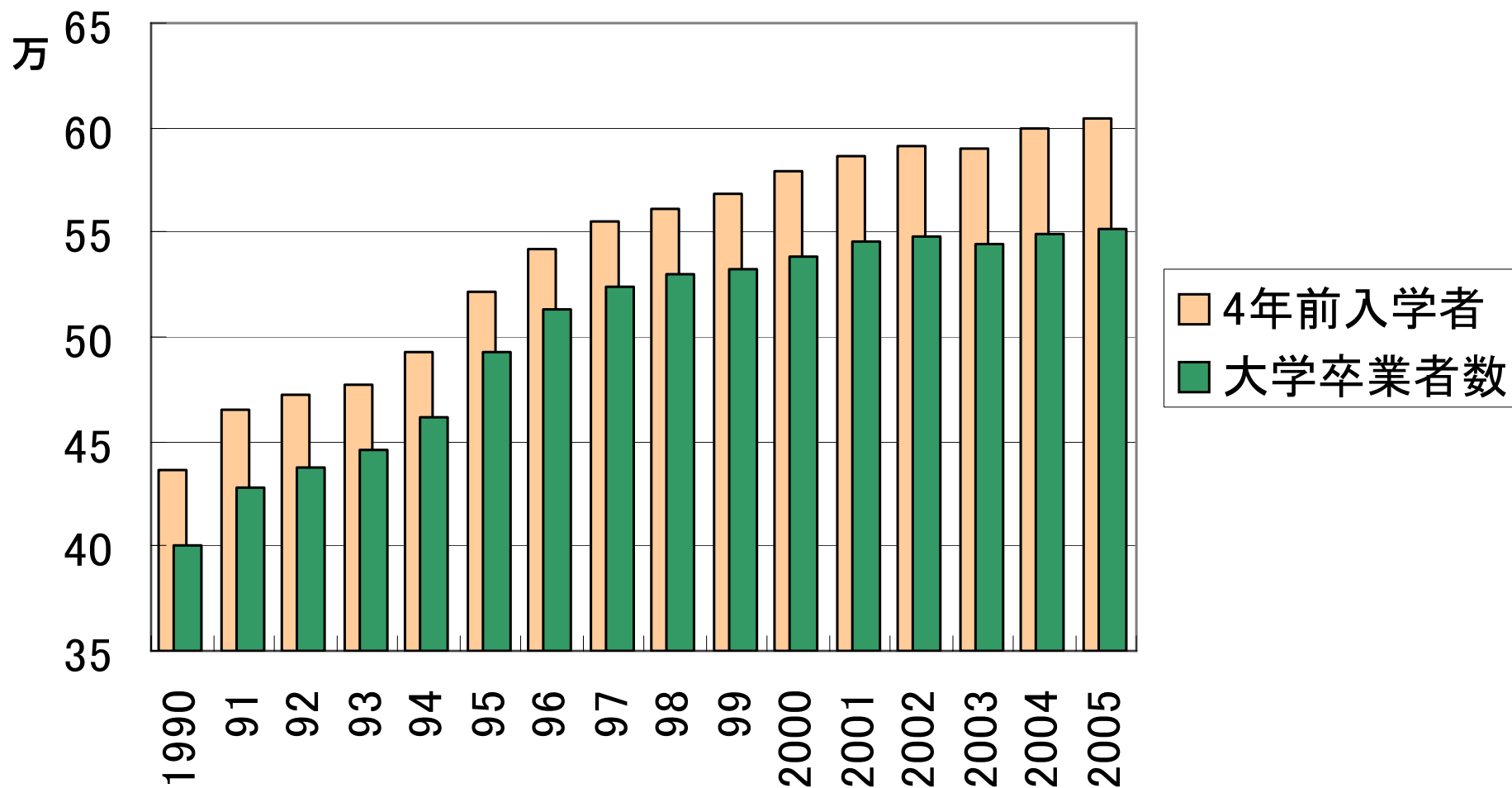
「インターネットのサイトを開いて見ている事が就職活動と  
思って、その後行動出来ない学生が増えている」など、  
多数。

- インターネット情報の信頼性に問題<ホームページの内容>(18校)「企業が発信するネット上の情報は、自社のいいところだけを揚げており、学生はその一方的情報で判断しやすい」など。

<学生の反応>(48校)「企業のHPの出来の良し悪しだけからその企業のイメージを描きがちでそれによってその企業の実像が見えにくくなっている」「インターネット上の口コミ、風評の類を信じる、かなり気にする」など。

- 学生の選択力との関係で問題(47校) 他

# 大学中退者の増加



資料出所: 文部科学省「学校基本調査」各年



景気

雇用形態多様化

産業構造転換

厳選採用

新卒採用の継続＝途中  
参入のハードル高い

インターネット利用  
の採用／早期化

中・高でのキャリア教育

職業の複雑化

－体験不足

豊かな世代

先延ばしで進学

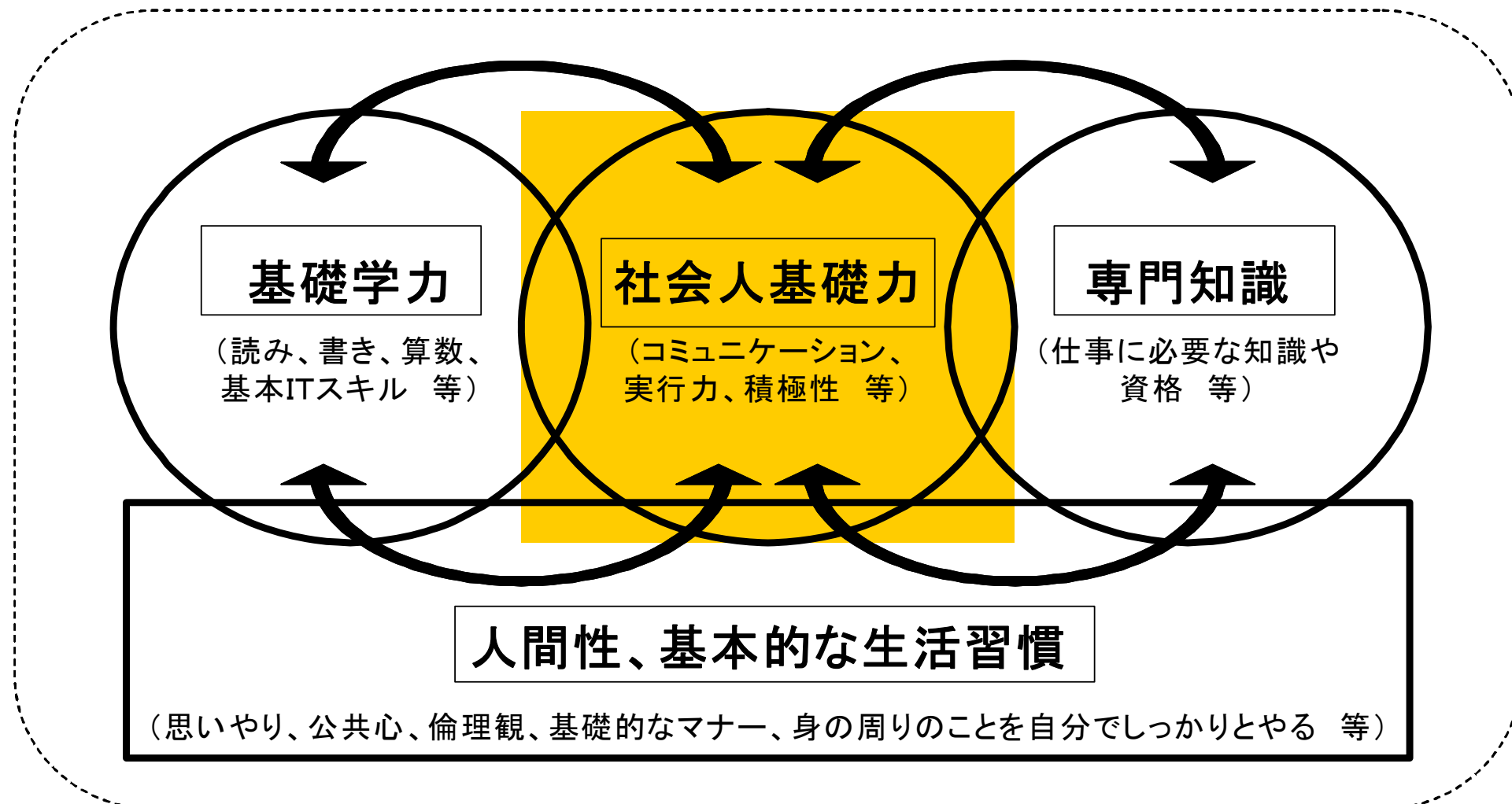
「やりたいこと」志向

「社会人基礎力」不足

就職のプレッシャー  
戸惑い、立ちすくみ  
さらなる先延ばし  
ドロップアウト

# 産業界の要請する社会人基礎力

※それぞれの能力の育成については、小・中学校段階では基礎学力が重視され、高等教育段階では専門知識が重視されるなど、成長段階に応じた対応が必要となる。



資料出所：経済産業省「社会人基礎力に関する研究会中間とりまとめ」2006

# 大学教育に期待される役割

- 就職支援
- 進路選択力・キャリアデザイン力
- 社会人基礎力  
(コミュニケーション能力・課題発見能力・責任感等)
- 専門知識



## 最後の教育段階としての役割

・・産業界との接点、高校との接点

キャリア教育と専門教育・教養教育の分担と連携

生涯学習(生涯職業能力開発)機関としての役割